

R5.3.3
町長就任



荻野町長 MOROOKA TAKAYUKI

PROFILE

昭和27年生まれ、71歳。田光区在住。朝上小学校、八風中学校、荻野高校卒業後、昭和45年に荻野町役場へ入庁。議会事務局長、社会教育課長、福祉課長、財務課長を歴任し、平成23年に荻野町副町長に就任。約8年間の任期を務め退任。令和5年3月3日に荻野町長に就任。



荻野町 THE NEXT 諸岡町政 始動

新たな荻野町政がスタート

令 和5年2月5日執行の荻野町長選挙で初当選を果たし、新町長に就任した諸岡高幸町長。昭和45年の入庁以来、職員と副町長として約50年に及ぶ期間、荻野町の町政運営に携わってきました。その経験を生かし、令和5年3月から諸岡町長のもと、新たな町政運営がスタートしています。

今月号では諸岡町長が町議会で行った所信表明を踏まえ、これから重点を置く5つの項目についてお伝えします。また、令和5年荻野町議会第1回定例会に提案した令和5年度予算の内容とともに、令和5年度の主要な事業等も抜粋してお伝えします。荻野町がまた新たな一歩を踏み出します。



▲とにかく身体を動かすことを欠かさないという諸岡町長。職員時代は、ピッチャーとして野球に励み、鈴鹿シティマロンなどへも積極的に出場していました。

所信表明 「地域は家庭、町民は家族」の思いを胸に全力を尽くす

多くの町民の皆さまからご信任をいただき、荻野町政を担うこととなりました。これから始める、新しいまちづくりに思いを馳せますと、改めてその責任の重さに身の引き締まる思いがいたします。

さて、近年、当町においても人口が減少に転じ、少子高齢化による社会保障費の増加に加え、公共用施設の高齢化が顕在化しています。令和5年度予算案では、予算総額が136億6000万円と、前年度より3億6000万円増加しています。これには社会保障費の増加や物価高が大きく影響しています。町税に関しては、感染症前の水準を上回る見込みですが、生産年齢人口の減少などから、より一層の財政規律の堅持が求められています。これら当町を取り巻く諸課題に対し、町民の皆さまはもとより、区長会をはじめとした各種関係団体の皆さまとのコミュニケーションを図り、多くの皆さまの声を大切にしながら、誰もが笑顔で幸せに暮らせる荻野町を創り上げていきたいと考えています。

次に、私が重点を置く5つの項目、また、それらを達成するための施策、考え方などについて申し上げます。



▲3月3日の初登庁時に職員から出迎えられる諸岡町長。

諸岡町長が掲げる5つの重点項目

- 1 安全安心に暮らせる町づくり
- 2 子育て支援
- 3 町民の新たな発想でのまちづくり
- 4 交流による元気なまちづくり
- 5 安心な社会生活の支援

政の基本となる安全で安心なまちづくりに取り組んでまいります。

2点目の「子育て支援」に関しては、子ども医療費の窓口無料化のほか、地産地消の温かい学校給食の実現、貧困や不登校への対策など、子どもを誰ひとりとしてとり残すことのない施策を講じてまいります。

3点目の「町民の新たな発想でのまちづくり」に関しては、鈴鹿の山々など、豊かな地域資源を活かし、近隣市町とも連携して観光振興を図るほか、特産物を使った農福連携と第6次産業化を推進します。ふるさと納税では、商工会との連携を強化するほか、企業版ふるさと納税の取り組みを進めていきます。

4点目の「交流による元気なまちづくり」に関しては、スポーツと芸術、文化の振興を図るとともに図書

館などを活用した世代間交流による生きがいづくりの場を提供します。5点目の「安心な社会生活の支援」に関しては、子どもから高齢者、障がい者の方、誰もが安心して生活できる地域社会を目指し、障がい者スポーツの振興と自立支援事業を積極的に展開してまいります。また、粗大ごみに関して回収方法の改善を図り、負担軽減につなげます。加えて、生活の利便性の向上と、業務の効率化を図るため、デジタルトランスフォーメーションを推進するほか、社会情勢により多様化する行政需要に対して、も、ひとつ



▲初登庁後、約200人の職員と報道陣の前で今後の展望を語りました。

ひとつ、しっかりと取り組んでまいります。まちづくりにおいて大切なこと、それは持続可能性であり、私は、子どもや孫の世代まで行政サービスの水準を維持できるよう、これまで培ってきた経験から全体を俯瞰し、計画的でバランスのとれた持続可能なまちづくりと財政運営に取り組んでまいります。そして、私が何度も申し上げてきた「地域は家庭、町民は家族」の思いを胸に全力を尽くしてまいります。